

## 会 議 録

会議の名称	平成15年度 第9回西東京市環境審議会
開催日時	平成15年11月7日(金) 17時05分から21時10分まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎 防災センター6階 講座室2
出席者	【委員】金井委員、櫻井委員、三木委員、網野委員、宇都宮委員、 和田委員、片山委員、鈴木委員、村松委員、金成委員、 中村委員、松本委員、矢内会長、西川副会長、菊池副会長 【事務局】大森環境防災部長、山本環境保全課長、青柳環境保全課長補佐、 横山環境計画係主事、プレック研究所 山内
議 題	1. 前回会議録の確認 2. 環境基本計画答申(案)について 3. その他
会議資料の 名 称	資料1 5.重点プロジェクト 資料2 6.計画の推進
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会 議 内 容	
<p>(17時05分開会)</p> <p>矢内会長          それでは、始めたいと思います。          今日、重点プロジェクトについての検討と、計画の推進、フォローアップ体制についての議論をしたい。          これを終わりますと、答申の全体像が出来上がることとなります。細かな文言などは、じっくり見ていく必要がありますが、これは事務的な作業にもなります。          前回議事録に関しては、何かありましたらお願いします。</p> <p>まず、資料1ですが、ステップを考えながらある程度詳しく書き込んだものとなっています。順番に見ていくか、グループに分かれて検討してもらうかなど考えられますが。          金成委員の案をまず紹介してもらえないでしょうか。</p> <p>金成委員          重点5で、提案が大体組み込まれていますが、ステップの早いところに、プラスチックの再資源化を入れてほしい。有料化と戸別収集はセットで検討してほしい。剪定枝や生ごみの資源化を先に出した上で、有料化という流れにしてほしい。          ステップ1から順に取組を進めていくので、10年でごみが半減できるのかどうか、考えたい。</p> <p>櫻井委員</p>	

議論の前提として、重点で議論しているものが始まるとしても2年後くらいからになるのではないのでしょうか。市の既存の事業との関係も明確にしておきたい。また、他の計画との整合はどうか、考えなくてもよいのか、確認しておきたい。

矢内会長

審議会は独自に検討を進めてきたが、最終的には予算との兼ね合いなどもあるので、次の検討のステップでは、他との整合を検討していくこととしたい。既存の事業とも、不整合がなければ出していけばよいのではないか。

重点5については、「ごみ半減」という目的の下でステップを組んでいるが、内容的にはどうでしょうか。「ごみ半減市民会議の設置」がステップ1なら、これで取組が終わってしまうような印象を受ける。ステップ1は、とりあえず出来ることをやっていくという段階でどうか。次に、収集処理方法見直しや様々な施策の検討、実施というのでどうか。

片山委員

市民意識を高めるという意味で、会議を設けるのはよい。それに平行して、ごみ処理の適切なルートを作り上げていくという考え方がよいのではないか。

宇都宮委員

必ずしもステップの順に進めるというのではなく、平行して進めていくこともあってよいのでは。ステップごとに進め方とかを考えるのもよいのではないか。

網野委員

それぞれの取組を誰がやるのか、明確にしておくべきでしょう。市の何課がやるのか、市民がやるのか、連携でやるのか、示しておくべきです。

また、無理にステップとして出すのではなく、項目を並べて示すということも出来る。ただ、ある程度、戦略性という視点も打ち出したい。すぐやること、5年以内に行うことくらいで示していくのでよいのではないか。

櫻井委員

重点5では、ごみ半減というのが大命題で、そのための具体的な小命題というのがあるのではないか。そのための取組を整理していけばよいのではないか。

金成委員

並列しているんなステップを書くのであれば、ごみ半減委員会は早い段階に出してもよいのではないか。

三木委員

それぞれの取組をいつやるのかを明確にし、スケジュール的に整理すれば、進行管理もしやすくなるのではないか。

片山委員

この計画は市民の計画でもあり、市の計画でもあるので、両方の意向を組み込んでい

くものになる。各主体の取組を有機的に結びつくように整理しておく必要がある。

鈴木委員

重点プロジェクトなので、意識改革的な取組よりも具体的な取組を前面に出していくべきではないか。会議をするだけというように見えるのはどうだろうか。

村松委員

並列で書くと、各項目間の優先度とかがわからなくなるのでは問題がある。

矢内会長

スケジュール的なものとセットで示せば、その点は解決できるのではないか。

網野委員

ここでは、大まかな取組の流れを決めるのにとどめ、具体的なスケジュールは実施計画の中で出すのでよいのではないか。今の段階でスケジュールを決めるのは厳しいのではないか。

櫻井委員

ごみ半減とは、資源化率を50%にするのか、排出量を半減するのか、はっきりと見えない。

金成委員

ごみ半減はキャッチフーズ的なものと考えている。

ごみの量を半分にするのは大変であり、まずは資源化率を50%にしたいというのが私の考えではある。

矢内会長

ごみ半減はひとつの目標と捉えたい。まずは資源化率をあげるとしても、最終的には排出そのものを減らしていく方向を考えていくべきでしょう。

なお、今後の審議会の予定として、11月18日に追加の会議を19時から開催したい。

ステップという書き方は取り外すことにしたい。ごみ半減市民会議と、具体的取組を大きく取り上げてまとめたい。

金成委員

市民会議を行い、自由に市民の参加を募り知恵を出し合うことで、スムーズに市の施策に反映できるのではないか。

宇都宮委員

日野市ではごみ半減を達成したようだが、こうした事例の研究なども、市民会議で取り上げればよいのでは。

櫻井委員

市民が市民会議を作るような書き方になっているので、書き方を「市民と環境保全課が協力して会議を立ち上げる」とかにしておくべき。

金成委員

重点についても、審議会から市への提言という形になるので、並列にするよりも、市民会議を頭に持って行って、市民の意見を出していくという姿勢を出すほうがよいのではないか。

網野委員

市民会議も大切だが、出来る取り組みはすぐにやるべきなので、それらを並列にするのもよいと思う。

矢内会長

市民会議と3Rとかの取組を並列するのでよいのではないか。

金成委員

進行管理をしっかりするというのが大切。その点からは、まず市民会議が頭にあるほうが進めやすいのではないか。市民によるチェック機能がまず必要ではないか。

矢内会長

金成委員からの提案に基本的には従って、わかりやすく整理するのでどうか。

宇都宮委員

3つのステップがあるが、具体的な取組が出せるのであれば並列に書いてもよいのではないか。

櫻井委員

ステップ2は環境学習にあたる部分。定期的に学習会を開くとかを出してほしい。

金成委員

重点8に環境学習が入っているのでよいのではないかと思います。

矢内会長

櫻井委員の小命題というのに各ステップがあたるのかもしれない。

ごみ半減市民会議は大きく掲げたい。そこでの検討の中身までは詳しくは書かなくてもよいだろう。

各取組については、実施主体を明記したい。

西川副会長

市民会議でうまく結論がでなかった場合、市がどうするのか、というようなことは書かなくてもよいのだろうか。市民会議では議論できないこともあるのだから、全て市民会議で議論するのも課題。

中村委員

市民会議は、ごみ問題を検討するための時限的な組織とすればよいのではないか。

金井委員

検討結果の実効性を確保するためには、何らかの推進団体はあったほうがよいと思う。

網野委員

市民や市がごみ半減を本気で取り組むことが重要なので、市民会議は短期的にごみ減量方策を検討して、ごみ半減宣言をすとかでよいのでは。

他の重点についても同様に、目的に対して市民や事業者が何をすべきかが大切なので、それぞれのテーマについて推進母体が必要かもしれない。

宇都宮委員

資料2の議論もしたほうがよいのではないか。

矢内会長

ではいったん、計画の推進について検討します。

櫻井委員

推進協議会の構成はどのようなものを想定しているのか。市の施策への意見もすることになっているが、かなり責任が大きいのではないか。実際に作れるものなのだろうか。

中村委員

ごみ半減市民会議は、ごみに関心のある人を募った会議であるので、推進協議会とは別の組織となるだろう。

網野委員

推進協議会は、全ての重点を受け持つというのではなく、全体を見渡して推進するために活動することを目的とした会議と捉えられるのではないか。

宇都宮委員

推進母体が計画の実行と点検に関わっているところが特徴といえる。推進母体の下に、各重点に対応したワーキングが出来るというようなイメージとしたい。

村松委員

市民からの客観的な評価を取り入れたい。「環境市民」がパートナーシップや行政の評価などのチェックシートを作っているが、このような仕組みを参考に出来ないか。

金成委員

推進協議会のようなものを設置している事例はあるのか。日野市の計画でもそのような位置付けはあるが。

宇都宮委員

狛江市ではある。推進委員会と、その下のワーキングという体制はとっている。うまく機能しているかはわからないが。

金井委員

広く市民が意見、提言することも重要。提言制度のようなものを入れておいたほうがよいのではないかと。

矢内会長

推進協議会は市が主催というよりも、NPO的な団体として立ち上げるべきだと思います。計画を円滑に進めていくための組織として位置付けたい。

鈴木委員

きちんとしたNPOとしての組織にしないと、これだけの活動を行うのは難しいのではないかと。現状では、そのような組織はないので、やるなら市民を新たに募るなどして、行政と協働して進めていくことになるのではないかと。

西川副会長

専門知識を有する市民などを募って組織するべきかもしれない。

櫻井委員

市内の環境について、環境基本計画についてなど、かなり幅広く認識していないと、資料に示されているような推進協議会の役割を果たせないのではないかと。

宇都宮委員

狛江市では、計画を作ったときの市民が、推進団体にも入っている。そうでないと、計画の進行管理は出来ないということです。コンサルタントも入っているようです。最近は、市民中心で進めようとしているところですが。

金成委員

これまで、推進協議会のようなものをおいたことはないと思うが、どういった意味で設置するのだろうか。

金井委員

実際に取組が実行されるように監視することが必要。それが基本計画の大きな役割でもあり、推進協議会は目玉的な組織とも言えるのではないかと。

鈴木委員

計画の管理は議会でやるのが原則だが、市民でも並行してやっていくということで、推進協議会というのは大きな提案だろう。実際に作れるかどうか、よく考えないといけないところ。

網野委員

推進協議会が推進と管理の両方に関わるということを明確にしておきたい。

(休憩 19:15 ~ 19:35)

矢内会長

他の重点についてもざっと見てください。その上で自由に検討を行いたい。

中村委員

重点2について、前回資料ではステップ1が東大農場の検討...と具体的であったが、今回抽象的になったような気がする。前のほうが具体的でよいのではないか。

金成委員

重点2の前文で、残された緑の保全のみならず、公共施設や公園などで緑を増やすという表現を入れてほしい。

中村委員

前回資料のように、簡潔に目的を示したほうがわかりやすいかもしれない。

櫻井委員

前文は少し冗長になっているように感じます。

鈴木委員

市民の気持ちを表すということも含めて、「市民の力をあわせて、緑地トラストの制度を促進する」という取組を入れられないか。宅地要綱の見直しにより、一定規模以上の宅地開発の際に、一定割合を緑地として確保するというような制度を作るという取組も入れられないか。

松本委員

市民が協力して緑を守るという意味で、トラスト制度というのはよいのではないか。

櫻井委員

緑の里親というより、市民が登録して、樹林などの買取を目指すというようなことのほうがよいかもしれない。

宅地要綱の見直しは、難しい点も多いと思うが、環境重視の時代要請に応えて、考え方を改めるべきではないか。

中村委員

緑地確保条例のなかで、鈴木委員の考えも入れていくということではよいのではないか。

金井委員

屋上緑化なども含めて、緑化を推進していくという方向で出していくべきではないか。農地の扱いが課題。「東大農場を緑地として残す」とあるが、緑地に農地は含まれて

いるのか。しっかりと整理しておくべきだろう。

矢内委員

市民トラスト制度は入れていきたい。

櫻井委員

緑地には農地は含まれると認識している。緑被率の定義に対応して考えられる。

金成委員

農地存続のため税制是正を求めるとかは入れられないか。

矢内会長

プロジェクトとして成り立つかどうかの問題でしょう。

宇都宮委員

国とのやり取りなので、かなり重点プロジェクトとしては厳しいのではないか。

金井委員

農地の借り上げの仕方、利用の仕方として、入れるとすれば市民農園、体験農園というような取組も考えられるが。

網野委員

1頁のおおむね5年以内に取り掛かるというのでは遅すぎる印象がある。5年以内に成果を出すくらいの表現にしてほしい。

重点1については、検討会を立ち上げるのであれば、検討するテーマを絞って示せないか。社会実験というのが目玉になると思うので、ステップ1の中で、具体的な社会実験の内容を検討するというのがよいだろう。

重点3は他の項目と比べると少し弱い印象を受ける。たとえば石神井川を対象を絞って、どこまで取り組むか明快に出来るとよいのではないか。これについては、検討会を作るのはなじまないプロジェクトかもしれない。

重点4は、家庭版ISOが目玉のようで、項目として、家庭版ISOを広めるというような表現を前面に出せばよいのではないか。

重点6では簡易版ISOを作り広めていくというところを強く打ち出したほうが、プロジェクトのイメージがつかみやすいだろう。

重点7では、堆肥化を進めるというのを前に出すというより、ステップ3の地産地消を頭に打ち出していったほうがよいだろう。もっと具体的な取組のアイデアを出していくためには、市民や農家を入れた検討会を作っていくのもよいのではないか。

重点8で、環境マップは市が作るというより市民参加型で作って情報発信していくということで、検討会で進めていくというのでよいのではないか。市民参加型の環境ニュース発信というのも関連していいだろう。

各重点の中に、このようにポイントとなるものを明確に打ち出していくというのがよいのではないか。



矢内会長

重点3について、川についてはあまり議論がなかったので、内容は少ないのですが、ご意見はありますか。

中村委員

前回の雨水浸透、雨水利用は消されているが、石神井川は水量と川幅が問題。その点からは、雨水地下浸透は入れておくべきではないか。

矢内会長

西東京市のスケールで水の循環まで成り立つのかということもあり、重点からは省いたのですが。

中村委員

そうであれば、重点3をやる価値はなくなる。削除してもよいのではないか。水がないのに親水化を進めても仕方がないのではないか。

鈴木委員

石神井川ではさらに深くするという計画があるが、こういう状況下では、重点3は非現実的と思う。水というテーマで出すのであれば、雨水浸透、雨水利用が前面になるべきではないか。

金井委員

水と人とのかわりも大切なので、親水性という観点は残してはどうか。

網野委員

野川や千川では、親水整備なども進められている。まずはそうした例を勉強して、石神井川で出来ないかを考えるという手順でどうだろうか。5年ですぐに成果は出ないにしても、川についてはこだわって、関係者と協力して粘り強く取り組むということで、残すのもよいのではないだろうか。

中村委員

川に恵まれなかったから、西東京では川に関する市民活動も低調だといえる。石神井川の自然を取り戻そうということは、他団体でも協議していることであり、雨水浸透も入れて、再整理してほしい。

片山委員

川は水循環と一体となっているので、川と雨水の両方の視点が必要。

白子川についても、まず水をきれいにするような取組を立ち上げるべきではないか。

櫻井委員

重点3を、形を変えて残すのであれば、流域自治体で連携して運動を起こすというのでも考えられる。流域の視点を出すのはどうか。

松本委員

流域で考えていくという考え方を出すのはよいのではないか。

青柳環境保全課長補佐

石神井川については、流域5市で協議会を作っており、水質や自然環境などの調査を行っている。

櫻井委員

すでに、市民でも行政でも取組があるのであれば、重点には入れなくてもよいのではないか。

和田委員

同じく、大事だとか言うだけでは、重点に入れなくてもよいと思う。

網野委員

ビオトープとかそのネットワークという観点から、石神井川が機能を発揮しているのかどうか。

中村委員

石神井川は市内の川幅が最大10m程度、水深は4mくらいあり、3面コンクリートで、大きなドブといった状態。川として取り戻すのであれば、水をきれいにする、東伏見あたりで親水性を取り戻すというのが重要である。

金成委員

水の放流とかで水量確保をすれば、生態系にもよいのかもしれない。コサギくらいはいるようだが。

片山委員

石神井川のことをよくわからないのだが、水がないのであれば川というイメージにならない。下水処理水などが導水できればよいのだが。

中村委員

雨水マスの設置などで雨水を地下に戻せば、湧水などで水量の回復も期待できる。

矢内委員

今のような意見も盛り込みながら、次回に提案してみることにする。

全体的に網野委員がまとめていただいたので、それに留意しながらまとめていきたい。

鈴木委員

環境教育が抜けているという意見が前回にあった。7頁などに盛り込んでしまったということでしょうか。それでもよいのだが、教育委員会との連携で、週5日制を活用しながら、モデル校を作るなりして、環境学習を進めていくというような文言をどこかに

入れておいてほしい。

矢内会長

若干積み残しもありますが、その辺も再度整理しまして提案したい。

次回は11月18日(火)の19時から、臨時の審議会を行いたい。

(21時15分閉会)

以上